

エネルギーとの付き合い方
青森県立青森工業高等学校
電子機械科 2年 山中 琥太郎

私は日本のエネルギー事情について、海外の資源と化石燃料に頼り切っていると考えています。それは、日本のエネルギーの大部分を占めているのが火力発電だからです。誰もが知っているとおり、火力発電の元となるのが化石燃料です。化石燃料は、私たちの生活の中で様々な形で存在しています。自動車のガソリンや灯油など私たちの生活の多くを化石燃料が支えています。よって、私たちは化石燃料に強く依存しているということになります。そのため、ガソリン、灯油の値上げによって私たちの生活に与える影響は数えきれません。だからこそ、何年も前に石油危機が起こった年は大変だったと思います。そして現在も化石燃料の残りが少なくなっていることで、ガソリン、灯油の値上げが行われています。現状、化石燃料が私たちの生活に与える影響が非常に大きいということを感じています。世界のエネルギーも大部分は火力発電なので、これは世界規模の問題なのだと知り、非常に驚いています。さらに、火力発電のもたらす影響は私たちの生活だけでなく、環境にも及ぼしています。それが、地球温暖化です。これは、火力発電によって排出される温室効果ガスが原因であると知られています。

日本では、この温室効果ガスの排出を減らすため様々な活動をしています。その例として、青森にある日本原燃株式会社が挙げられます。私は以前、日本原燃に企業見学に行きました。そこで驚いたのが、ウラン燃料を再利用した MOX 燃料というものです。私は、この MOX 燃料が今後、青森のエネルギー事情を大きく変えていくのではないかと考えています。今までは、火力発電に比べ発電量の劣る原子力発電ですが、火力発電での発電を減らしていこうとしている中、原子力発電の使用済み燃料から再び生み出される MOX 燃料は、今後様々なところで活躍してくるのではないのでしょうか。日本は、現在環境にやさしいエネルギーの開発に取り組んでいます。例えば、電気自動車や太陽光発電などが例として挙げられます。そして、MOX 燃料が生み出されれば、今よりもさらに火力発電の発電量を減らすことができるのではないのでしょうか。世界でもこの MOX 燃料を使うことで、火力発電に頼る必要がなくなり、地球温暖化が収まると予想しています。しかし、原子力発電の原料であるウランの残り年数が少ないことから MOX 燃料に変わる新たなエネルギーを生み出さなくてはならないというのが、今後の課題になると考えます。

どんなに火力発電に変わるエネルギーをつくっても、私たちの生活様式を改善していかなければ、またしてもこのような事態になると思います。私たちは、

一人ひとりの消費エネルギーが多いことを一番に改善しなくてはならないと思います。例えば、一家で一日の電気量を厳しく管理したり、灯油を使わずに寒さをしのいだりするなど一人ひとりが省エネを意識して行動しようと思えば、取り組めることが多々あると思います。私も数年前までは、灯油ストーブで暖を取っていました。しかし、環境問題が出てきてからは、極力灯油ストーブを使わずに生活しようと厚着をしたり、布団に入ったりして暖を取るなどの工夫をしながら生活しています。

つまり、やろうと思えばなんだってできるということです。環境問題を引き起こす原因を我々が自らつくり、地球環境を悪化させていることを認識し、改善していくことが大事なのではないでしょうか。生活の中で無駄を省き、電化製品を省エネなものに変えたり、常にエネルギーのことを頭に入れたりしながら行動すれば、おのずと環境問題がなくなっていくのではないのでしょうか。環境にやさしいエネルギーの開発と並行して、我々の生活様式を改善していくことが、今後の生活を左右することになると考えます。